

秋の収穫感謝祭を楽しむ

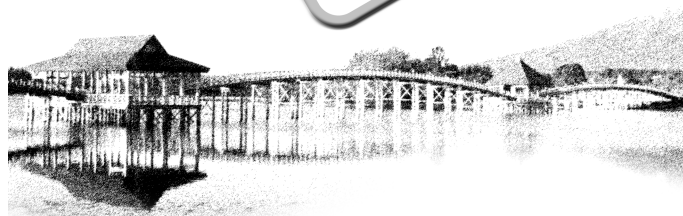
11月11日（日）、亀田地区の住民が亀田新田子ふれあいセンターに集まり、秋の収穫感謝祭を開催して地域の交流を深めました。

この収穫感謝祭は、亀田幸せの種まき運動、JA亀田女性部、男の料理研究会、亀田子ども会が協力して実施。もちつき大会や大ビンゴ大会など、楽しいイベントが盛りだくさん。

もちつき大会では対馬誠二さんがムキムキマンの衣装で子どもたちと一緒にもちつきを楽しみました。出来上がったおもちは、あずきを入れたり、お雑煮にして振る舞われました。懇親会では、男の料理研究会のメンバーが作った料理の数々が登場。地元のグループホーム入居者も招待され、地域の子どもから大人までみんなが楽しんでいました。



△子どもたちはムキムキマンと一緒にもちつきを体験



あなたの地区の楽しい催しや出来事などを役場企画課広報国際係までどしどしお知らせください。(☎22-2111 内線264)

「HIZURU」の活動に表彰

11月10日（土）、11日（日）、第38回東北地区子ども会育成研究協議会岩手大会が雫石市で開催され、当町のジュニアリーダーズクラブ「HIZURU」が、子ども会育成連絡協議会表彰を受賞しました。

「HIZURU」のメンバーは現在37人で、町の行事や子ども会活動などに参加し、企画や運営に携わり子どもたちのリーダー役として活躍しています。結成から10年間の活動が評価され今回の受賞につながりました。会長の齋藤泉さんは「小さな町なのに東北の中で注目されて嬉しい。これからの活動にも力を入れてがんばりたい」喜びを語ってくれました。



△HIZURUの会長齋藤泉さん（鶴高3年）が中野町長へ喜びの報告

ふるさと産品と交流給食

11月13日（火）、富士見小学校（工藤志津子校長）で、給食に食材を提供している学校給食応援隊の3人と4年生の児童13人が一緒に給食を食べ交流を深めました。

学校給食では1年に1度「ふるさと産品の日」を設け、地元の食材を中心に使った献立を提供しています。この日は特産品のスチューベンが初めて給食に提供され子どもたちには大変好評でした。学校給食応援隊の山本俊子さんは「一緒に給食を食べることによって、生産者の顔がわかり、子どもたちは給食を残さなくなるので、生産者も作り甲斐を感じます」と交流会の良さを話してくれました。



△学校給食応援隊の方々と会話をしながら給食を食べる児童



△持ち寄ったリンゴを詰め替えし農協の冷蔵庫に保管します

みどりの会リンゴ35箱提供

11月16日（金）、町の農業後継者で組織する鶴田町みどりの会（今久志会長）が、学校給食共同調理所にサンふじ35箱を無償提供してくれました。

今年も11月19日（月）から3月いっぱいまで給食に毎日リンゴが提供されます。学校給食では年間約250箱のリンゴが消費されるため、みどりの会や各種農業団体、各家庭にリンゴの提供を呼び掛けています。

今会長は「子どもたちに安全、安心なリンゴを食べてもらいたいので、提供しています」と語り、この日は20人の会員が各家庭からリンゴを持ち寄ってくれました。

地元産豆腐で会席料理に挑戦

11月21日（水）、鶴田高等学校（森川敏行校長）で、地域の人たちと交流を図るために行っているコミュニティスクールの一環として、3年生17人と一般参加者12人が地元産の豆腐を使った会席料理作りをしました。

この日は講師として鶴田町食生活改善推進員と町栄養士の齋藤菜推美さんの13人が指導にあたり、参加者は豆腐ハンバーグ、豆乳茶碗蒸しなどの豆腐づくしの料理に挑戦。参加した長谷川智也さんは「ハンバーグの形づくりが難しかったけど、おいしくできました。地域の人と交流できるこの機会を大事にした」と話し調理を楽しんでいました。



△地域の方々と協力して調理をすることで交流を深める鶴高生たち